

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
神代植物公園		（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
指定期間					
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）					
2 施設名		3 収支(単位:千円)			
			令和4年度	令和3年度	令和2年度
		項目	金額	金額	金額
神代植物公園		収入計	645,924	602,436	576,131
		内 指定管理料	645,924	602,436	576,131
		内 利用料金	0	0	0
		支出計	620,760	593,991	571,581
		収支差	25,164	8,445	4,550
公園別支出額 神代植物公園：620,760					
4 管理運営の概要					
<p>【江戸園芸文化の保存・継承】 ウメやツバキ、ツツジやなど古くから伝わる園芸品種を適切に栽培管理するとともに、江戸の展示・栽培手法を交えた「さくらそう展」とその園芸文化を集大成した特別企画展「江戸の花 さくらそう」を開催、新たに「松葉蘭展」を開催するなど、江戸園芸文化の保存と継承を進めました。</p> <p>【植物多様性の保全】 絶滅危惧植物の生育状況調査や域外保全、学習園や情報館での展示を充実するとともに、保全団体や専門家等が会して情報連絡会を開催し、東京の植物多様性保全に貢献しました。 植物多様性センター開設10周年記念事業として、記念講座を開催したほか、初の夜間観察会を開催してオンラインで配信しました。また、学習園の植物や10年の活動記録を集約した記念誌をWeb公開し、これまでの成果を振り返り更なる発展の契機としました。</p> <p>【魅力向上と情報発信】 見本園の再生やフォトスポットの設置、展示の充実により魅力を高めるとともに、春バラ、紅葉、桜のドローン動画でPRしました。また、きめ細やかな開花情報の発信により、ツイッターのフォロワーが4万人を超え全国の公園・植物園（動物園を除く）でトップとなりました。 マスクミ等に広報資料を電子メールで一斉送信する際、メールアドレスが他者に流出する事故が発生したことから、即時、お詫びと消去を依頼のうえ、全社でメール誤送信防止ソフトの導入や業務手順の見直し、定期的な点検と職員教育など再発防止の徹底を図りました。</p>					
5 管理状況（維持管理）					
<p>■ ショクダイオオコンニャクの日本最多となる同一株5回の開花に成功しました。今回は花と葉が同時に成長するという世界2例目の珍しい咲き方で、公開に際し、同様の開花例があるアデレード植物園や専門家と連携して詳細に情報発信しました。</p> <p>■ 大温室リニューアル時の植栽から7年の栽培を経て、東日本で2例目となる「世界一美しい花木」ヨウラクボクの開花に成功し、貴重な花の姿を公開することができました。</p> <p>■ 創作四ツ目垣や灯籠、竹製スマホスタンド、番傘等により単調であったかえで園にパークビューを創出しました。</p> <p>■ これまでのコロナ禍の休園期間も活かし、3年かけて藤棚の仕立て直しを行い花が梁から長く垂れて咲くようになり、新聞でも紹介されました。</p> <p>■ 約50品種の花蓮で、糸を用いたカラス対策や丁寧な栽培管理により生育が改善し、多くの花を楽しむことができました。</p> <p>■ 日本花菖蒲協会の協力で栽培管理するハナショウブ約400株の品種同定を完了し、貴重な品種の保存・継承につなげました。</p> <p>■ 東京都工事に伴うエビラシダの移植と生息域外保全等のほか、絶滅危惧種のモニタリング調査を小山内裏公園や蘆花恒春園で、優先保全対象種の生育地調査をヒナノキンチャクの新たな自生地や神津島、利島で実施しました。</p> <p>■ 温度制御等の工夫により情報館での無菌培養の現物展示を開始し、植物多様性保全の取組を広く普及することができました。</p>					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収/QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
神代植物公園	4.6	4.6	4.4	4.7	4.6
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
神代植物公園	659,185	4月、5月はイベントの制約や来園者の出控えがありましたが、ショクダイオオコンニャクやヨウラクボクなどの開花のほか、かえで園でのパークビュー創出や大学と連携したアプリ「神代バラコレ」リリース、SNS等を活用した魅力発信等により、来園者数は659,185人となり、目標比90.9%、コロナ禍の影響が薄れた6月以降では103.2%を獲得することができました。			
合計	659,185				



神代植物公園

所在地：調布市／開園面積：50.19ha

『世界一の都市・東京』に
ふさわしい植物園として



ドローンで撮影したさくら園

日本を代表する植物園として存在をアピール



日本最多！シヨクダイオオコンニャク5回目の開花

前年6月に続き12月にシヨクダイオオコンニャクが開花。同一株5回は日本最多タイ、花と葉が同時に成長する世界2例目の咲き方で、同様の開花例があるアデレード植物園や専門家と連携して詳細に情報発信。休園日の臨時開園や早朝開園が好評で、**貴重な開花を観覧できたと、多数の感謝の声**

2月に東日本2例目となるヨウラクボクが開花、「**世界一美しい花木**」と称される珍しい花を広く公開



シヨクダイオオコンニャクとヨウラクボク

植物コレクションを活かした魅力発信



見本園に四季折々のパークビューを創出

創作四ツ目垣や灯籠、番傘等により単調なかえで園にパークビューを創出、初開催のツイッター上でのフォトコンテストや前年に撮影したドローン映像を活用した魅力発信により、**フォトスポットは行列ができる人気**

つつじ園の見晴らし台やうめ園にもフォトスポットを設置し、**見本園の魅力を高めて賑わいを創出**

長さ85mの藤棚をコロナ禍の休園も活かし3年かけ仕立て直し、花蓮園では糸を用いたカラス対策を行うことで、**開花が大幅に改善**

夏の植物園の魅力を発信

新たに夏休み親子向け企画「真夏の植物ワンダーランド」を開催。行列が絶えなかった「大温室夜間公開」をはじめ「食虫植物展」「オオオニバスに乗ろう！」「アプリde園JOY！」等により8月入園者が目標比121%となり、**夏季の新たな魅力を創出**



かえで園フォトスポット



つつじ園見晴らし台



オオオニバスに乗ろう！



東京の貴重な植物を未来へ継承



江戸園芸文化の保存・継承

「さくらそう展」に加え、その園芸文化を集大成し特別企画展「江戸の花さくらそう」を開催、また、新たに松葉蘭展を開催し、**江戸園芸文化を発信**

日本花菖蒲協会の協力でハナショウブ約400株の品種同定を完了し、**江戸古花を含む貴重な品種を継承**

植物多様性の保全

東京都工事に伴うエビラシダの移植と生息域外保全のほか、優先保全対象種の調査をヒナノキンチャクの新たな自生地や神津島、利島で、絶滅危惧種のモニタリング調査を小山内裏公園等で行い、**希少種を保全**
温度制御等の工夫により無菌培養の現物展示を開始し、**保全の取組を普及**



ヒナノキンチャク

これまでの成果を振り返り、更なる発展の契機に



植物多様性センター開設10周年

植物多様性センター開設10周年記念事業として、当センターのアドバイザーを講師に記念講座を開催したほか、調布市と連携し初の夜間観察会を開催し、夜咲きの花やライトトラップの昆虫観察をオンライン配信
当センターで見られる植物や10年の活動記録をまとめた記念誌を制作。

これまでの成果を振り返り、新たな歩みをスタート



開設10周年記念講座

植物園の新たな楽しみを提供



セルフガイドアプリ・ワーケーション・コレクションカード

千葉工業大学と連携して、撮影した写真でバラ図鑑が作れるアプリ「神代バラコレ」をリリースし、**植物園の新たな楽しみを提供**。周遊型アプリ「深大寺恋物語謎解き」第4弾は、**エリアを深大寺から水生植物園・深大寺城跡まで拡大して一体利用を促進**

大温室休憩室等で実施している好評のワーケーションサービスを、屋外のばら園テラスや芝生広場にも拡大し、**体験レポート取材も受け、新たな利用が拡大**

都立施設及び全国の植物園として初、全国観光スポットカード「ロケットカード」を発行



「神代バラコレ」画面

地元自治体や企業と連携した地域活性化



地域連携イベントの開催

調布市の水木しげる生誕100周年記念事業の一環で、クイズラリーや植物で作った妖怪のフォトスポットを設置。また、調布スマートシティ協議会と連携し「調布デジタルスタンプラリー」を開催し、**地域活性化に寄与**

調布市や調布警察署、調布消防署、自衛隊、自治会、獣医師会、ボランティア等と共に「防災フェスタ」を開催、**地域の連携をさらに強化し、防災力を向上**



防災フェスタ